

令和4年度 学校評価報告書

学校名	三田市立志手原小学校
-----	------------

1 学校教育目標

自ら学ぶ意欲と方法を身につけた心豊かな志手原っ子の育成

2 今年度の学校重点目標

- ・基礎基本の定着を図り、確かな学力をつける。
- ・学校全体で協働して授業改善を進める。
- ・健やかな体を作るための力を育む教育を進める。
- ・豊かな人間性や社会性を培い、ともに伸びる姿勢を育む。
- ・地域の素材を活かした授業づくりに取り組む。
- ・安全で豊かな教育環境の実現を図る。
- ・家庭や地域と課題を共有し、子どもの健やかな育ちを図る。
- ・適正な予算執行に努めると共に、明確な会計管理を徹底する。

3 総合的な自己評価

学習指導では、3年間情報教育の研究で取り組んできた成果が表れ、iPadの操作スキルやプログラミング的思考力が高まっている。また、ICT機器を取り入れた授業の工夫で情報を活用する能力を高めることに取り組んできた。その一方で、基礎学力の定着と自分から進んで学習をする習慣をつけてほしいという保護者の願いもある。学年に応じた家庭学習についてiPadの効果的な利用などを含めて習慣化できるように学び方を指導していきたい。また、生活指導では、気持ちのよい挨拶をしたり場に応じた言葉遣いができたりすることに課題が見られた。一人一人の様子がよく分かる小規模校での取り組みをさらに充実させ、心のふれあいを大切に共感的な人間関係を育成し、発達段階に応じた指導を展開していく。

4 総合的な学校関係者評価

コロナ禍で教職員が少人数での学校運営など難しい中、子どもたちのために職員の皆さんが尽力されて、落ち着いた教育環境を作っていただいています。ICTに関しては、素晴らしい取組をされ、来年度も継続して取り組んでいただくように望みます。挨拶や言葉遣いについては、家庭の中からの取り組みが大切で、学校と家庭と地域と子どもたちで課題を共有して、取り組んでほしいです。まだまだ地域との協力が不足していたり、家庭との協働が必要だと感じたりしているので、志手原っ子の育成のために力を合わせていきたい。

5 評価結果

自己評価			学校関係者評価	
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育目標 教育方針	教育目標や重点目標を意識しながら、目標達成に向けて教育活動に取り組んでいる。	ICTを活用した授業を展開するとともに具体的な体験活動も取り入れて教育活動に取り組んでいる。目標に向かって子どもたちがそれぞれ努力している姿がいくつもの場面で見ることができた。	これまで培ってきた教育を充実させ、子どもや保護者に学校へ行くのが楽しみだと引き続き思ってもらえるように取り組んでいく。また、子どもが自ら主体的に取り組んで行く姿を支援していく。	ICTに関しては学年に応じた取り組みをされ、成果がみられました。来年度も継続して取り組まれることを望みます。目標を達成することにより自信が生まれ、さらなる目標をめざす場面を創出することを望みます。
	期待する児童像の実現に向けて、家庭や地域と連携して学習面・生活面に取り組んでいる。	学校支援ボランティアや地域の人材、関係団体と連携して教育活動に取り組むことができた。地域の方への挨拶などは不十分などもある。また、小規模校ゆえに子ども同士がお互いよく知っているため、話し言葉が乱れる傾向にある。場に応じた適切な言葉遣いに課題を感じることもある。	縦割り班や幼稚園の交流を活かし高学年のリーダーシップを育て、子ども一人一人の力を発揮できるように指導を充実していく。また、保護者や地域との交流をもとに場に応じた言葉遣いや態度などを発達段階に応じて身につけていく。さらに、家庭との連携を強化して、学習習慣をつけさせる。	期待する児童像は教師と保護者、子どもたち自身で一致しているでしょうか。課題の共通認識ができていないと連携して取り組めないのでは、課題の共有を図ってほしいです。
教育課程 学習指導	週時程や学校行事の年間計画は、内容や取組時間が適切であったか	年間計画にもとづき、子どもたちは学校行事に向かって熱心に取り組んでいる。行事も精選してきているので、大きな行事に向かって、集中して取り組むことができていく。授業時数は、しっかり確保でき、余剰時間も余裕がある状況である。	小さな行事を精選してきたことで、教師も子どもたちも負担が軽減されてきた。運動会や音楽会でも、余裕を持った練習期間を設定することができた。低学年・中学年・高学年で協力しながら取り組んでいることは、小規模校ならではのよい面である。無理をさせすぎず、学年に応じた子どもたちの頑張りや表現できるように取り組んでいく。	コロナ禍でスケジュールが難しい中、学校行事はとてスムーズでしっかりと出来ており先生方の準備が周到であったと思います。子どもたちも行事に取り組む成果をだすことができ自信が持てたと思います。
	基礎的・基本的な内容を習得させ、思考力・判断力・表現力を高め、確かな学力の向上に取り組むことができたか	新学習指導要領の趣旨を踏まえて、基礎的・基本的な内容を押さえて指導している。また、朝の学習の時間を利用したり、タブレットアプリのドリルパークを使用したりして復習に取り組んでいる。しかし、内容を確実に理解し、習熟させていくまでの必要な時間は、個人差があり、課題がみられる。	ICT教育の研究の成果がある子どもたちは、家庭で音読を動画にとって担任に送り、評価を受ける取り組みを行ったり、アプリを利用したりするなど情報機器が基礎学力の習得に役立っている。ただ、教科書とノートを使っている学習も必要である。毎日の宿題で基礎基本の定着に努めたり、プリントなどを活用したり、問題演習を今後も続けていきたい。	こつこつと取り組む、丁寧に取り組むことは子どもたちにとって苦手とされます。努力の大切さを説くだけでは難しく、保護者との協働がより必要かと思えます。
	命と人権を大切に教育を充実させ、豊かな心を育む取組ができたか	子どもたちは、友だちも大切にしているし、自分も大切にしていると感じている。授業や普段の生活のなかで命や人権を大切にすることを教師が発信していく中で、豊かな心を育てている。	小規模校でお互いよく知っているため、子どもたちは、自分の気持ちや意見を伝えずとも、友だちが察してくれるところがある。命や人権を大切にしていくために、自分の気持ちや意見をしっかりと伝えていくとともに、相手の気持ちや意見を聞き取る力を高めていく。	相手の気持ちを察することが行き過ぎると相手への固定観念が生まれ、変わっていくことの妨げにならないか気になる場所です。
	体力の向上や毎日を健康で安全に過ごすための教育を充実させ、健やかな体を育む取組ができたか	高学年を中心に朝の運動を昨年度から継続して実施しており、持久走や縄跳びなど体力向上に取り組んでいる。また、ICT機器を用いてキッピー体操にも取り組んでいる。休み時間は、1年生から6年生まで一緒に外遊びも盛んである。また、保健指導も毎学期行っており、健康管理に注意するとともに保健だよりの配付で保護者へも協力を呼び掛けている。	引き続き休み時間を利用して運動に親しみ、子ども一人一人に応じた体力の向上に努めていく。さらに、自分自身の体調や健康について意識して、理解を深め、自己管理しながら、保持増進させていきたい。今後も楽しく興味を持って学び、健やかな体を育むことを習慣化できるように家庭の協力も得ながら継続して取り組んでいく。	マスク生活の中で運動に取り組むづらい状況が3年も続いているので、運動能力、健康の維持、向上に苦心されていたと思われれます。
研修・研究	研究テーマに則してICTを活用した授業づくりができた。	教科の特性や相性を見極め、ICTを効果的に活用した授業づくりができた。さらに、プログラミング学習に取り組む各学年に応じた教材を選択し、学びを深める授業づくりに挑戦した。	ICTを活用した学習が、限られた教科だけでなく様々な場面での活用を模索していきたい。また、プログラミング学習が本校の特色でもあるので、各学年に応じたプログラミングの教材を単元に位置付け、学びを深める授業を推進していく。	プログラミングへの取り組みは素晴らしいと思います。基礎学習にもiPadを活用できるとよいと思います。
	仲間とのつながりを大切にし、学びを深めていくことができた。	一人1台のiPadで自分の意見を入力したり、作品を作成したりし、それらを他の仲間と共有することで、活発な意見交流を行い、学びを深めていた。	協働的な学びと個人の学びのバランスをどのように確保していくのか検討していきたい。そして、仲間とのつながりを大切にし、対話を通して学びを深めていく取り組みを推進していく。	iPadを通してのつながりや共有は評価されますが、最近のSNSの事件に見られるように、ネットリテラシーも身につけてほしいです。

生活指導	気持ちの良い挨拶をしたり、人を思いやった場に応じた言葉遣いができたりするよう指導している。	挨拶や言葉遣いについては、児童の評価は高いものの教師と保護者の評価は共に高くはない。子どもたちは子どもたちなりに自分は挨拶をしたり適切な言葉を使ったりしていると思っているかもしれないが、まだまだ足りていない。	挨拶や言葉遣いについては、コロナ禍でマスク生活が続き、対話する機会が減少したので、積極的に対話する機会が必要である。また、外部の人たちとの出会いが減少したので、機会を増やし、交流行事や学習発表などで場に応じた適切な言葉遣いや挨拶を継続して指導していきたい。	形だけ教えても身につかないので難しいことです。子どもたちは、道で人と会う機会も少ない環境なので、上野台中学校とも協力して、中学生と小学生が出会った時にお互いがあいさつできるようになったらよいと思います。
	「学校いじめ防止基本方針」に基づき、児童一人一人の悩みや不安に寄り添い、深い児童理解に根ざした指導ができた。	子どもたちの心に寄り添った指導で悩みや不安に細かく対応することができている。しかし、不安や悩み、困っていることを教師に相談できていないと感じている保護者がいる。	子どもたちの心に寄り添った指導を行っており、組織的に対応することもできた。不安や悩み事を聴き、一緒に考えたり、指導を行ったりしながら、不安や悩み事を解消できるように、時間をかけて継続的に指導をし、成長を見守っていききたい。	自分の思いを優先して感情的になったり、まわりの人の気持ちを考えないで行動してしまったりすることも一時的にあるようだが、保護者と協力して問題解決に取り組んでももらいたいと思います。
	食育を通して、子どもたち自身を見つめ直し、生活改善に取り組み、生活習慣を向上させることができたか	食育については、給食時間中のZOOMを活用した食育動画配信や掲示物作成・広報等を実施した。三田の農作物や食文化に触れる取り組みを行い、自身の食生活を振り返るきっかけを作った。健康への取り組みについては、今年度も新型コロナウイルス感染者数が高止まりしていたこともあり、はみがきの指導等ができなかった。そのため保健だよりを活用した児童・保護者への情報発信・啓発に力を入れ、身体測定時には保健指導も行った。	食育・保健指導ともに、児童や保護者への広報活動は継続していく。感染状況次第ではあるが、調理実習の充実やはみがきの指導等についても、感染症対策を行いながら実施していきたい。また、家庭と連携して児童が基本的な生活習慣を身につけていけるよう、保護者と一緒に取り組める活動を実施していきたい。	コロナ禍もあり、食育活動は低調であったと思います。給食時も黙食が優先され楽しめなかったと思います。仕方がないと思いますので来年度に期待しています。
学校・家庭・地域との連携	「地域とともにある学校」づくりを推進し、課題を共有して情報提供を積極的に行い、共に教育に取り組むことができた。	学校通信や学年通信、研究便りなどを定期的に発行し、情報を発信している。さらに区長会を通して学校通信を地域に回覧したり、学校地域運営協議会委員に配付したりしている。また、HPには学校通信の他、志手原Diaryで1か月の活動内容を知らせている。	個人情報保護や著作権の観点にも注意しながら、保護者や地域の人々に見やすい、分かりやすい紙面づくりをめざし、積極的に情報発信をしていく。また、学校行事やPTA行事の工夫・改善も図りながら各種団体と連携を図っていく。	メールを活用しての情報共有がしつかりとできている。各通信を発行しての情報発信もできている。電話対応の時間が制限されたことによる不都合が生じていないか気になります。
	志手原校区地域づくり協議会や学校支援ボランティア、地域の人材を活用した教育活動を積極的に取り組むことができた。	朝の見守り活動や放課後子ども教室、図書ボランティアなど各関係者や団体の協力により継続することができた。さらに、交通安全教室や米作りなど、昨年出来なかった活動ができ、たくさんの人々とふれあうことができた。また、感謝の集いも行い、地域でも支えていただいている認識を全校生で確認できた。	各学年のカリキュラムに保護者や地域の人々と連携した教育活動について再点検を行い、どの学年にも協力していただくように見直していく。また、学校支援ボランティアやPTAとの連携をさらに強化していきたい。	まだまだ地域の協力が足りていないと感じています。子どもたち自身、志手原校区の一員であるという認識を持ってもらいたいです。